

鹿児島県肉用牛振興協議会情報提供誌
肉振協だより第48号

鹿児島県黒牛

編集発行 鹿児島県肉用牛振興協議会

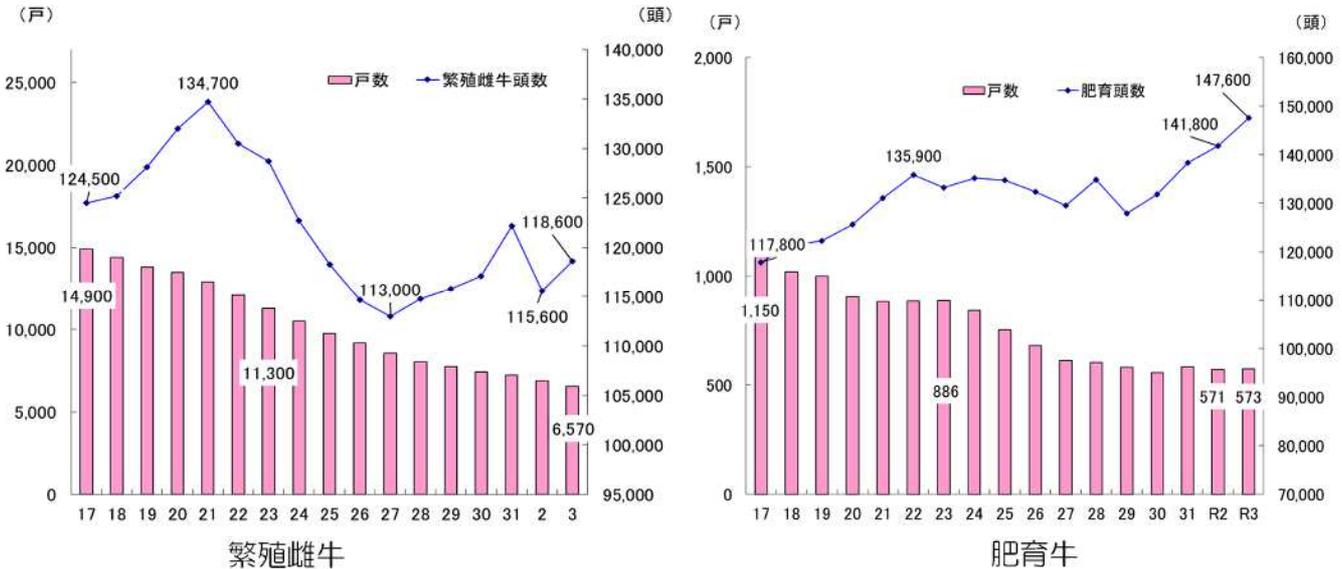
所在地 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
(鹿児島県農政部畜産課内)

TEL : 099-286-3223 FAX : 099-286-5599

ホームページ URL : <http://kagoshima-kuroushi.org/>

今こそ、肉用牛生産基盤を強化しましょう

鹿児島県における肉用牛飼養戸数・頭数の推移



- 鹿児島県の和牛繁殖雌牛頭数は、令和3年で約11万9千頭（全国の18.7%）で、近年は増加傾向
- 肥育牛は、年々増加（令和3年：約14万7千頭）しており、県内の生産子牛では肥育素牛がまかなえない状況

「生産基盤拡大加速化事業」令和4年度も継続決定

優良な和牛繁殖雌牛を増頭する場合に増頭実績に応じた奨励金を交付

	繁殖雌牛	
飼養規模	期首が50頭未満	期首が50頭以上
増頭奨励金	24.6万円/頭	17.5万円/頭

令和2年は県内で9,083頭の増頭が図られました。

＜事業参加者の要件＞

- 畜産クラスター計画に位置付けられた取組主体（JA、配飼協等）の構成員
- 事業参加者ごとに、3年後の成果目標の設定が必要です。
※「子牛販売金額10%増加」または「農業所得10%増加」

＜交付対象牛の要件＞

- 脂肪交雑 並びに その他の育種価の1つ以上がB以上であること。
- 期末頭数（令和3年12月31日）から期首頭数（令和3年1月1日）を差し引いた数を増頭数とし、その範囲内で（1）の要件を満たす牛が対象です。
※1参加者当たり50頭が交付対象頭数の上限です。
※自家保留による増頭も可
- 期末時点で満9ヶ月齢以上の繁殖雌牛が対象です。
(ただし、導入時点で満14ヶ月齢未満（初妊牛除く）であることが条件です。)
その上で、上記の飼養規模に応じ、奨励金の単価が決まります。

増頭に見合った堆肥舎整備により、適正な家畜排せつ物処理に努めましょう

〔肉用牛を10頭以上飼養する場合は「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」により一定の構造基準を満たす堆肥舎整備が義務化されています。〕

第12回全共鹿児島大会へ向けた出品対策の取組について

第12回全共県推進委員会の活動

和牛登録協会県支部，県経済連，各地区の農協で組織される「第12回全国和牛能力共進会鹿児島県推進協議会」主催の第14回推進委員会が令和3年12月24日に開催されました。県内各地区で出品対策に取り組んでいるJAや関係機関・団体の推進委員が集まり，出品区分ごとの出品対策の実施状況や出品牛の最終選抜までのスケジュール確認を行うとともに，鹿児島大会に向けた出品対策の強化について協議しました。



【推進委員会の様子】

「種牛の部」における出品対策の取組状況

「種牛の部」については，令和3年8月6日までに全ての出品区分の候補牛が生まれ，各地区では巡回調査・集合調査による候補牛の掘り起こしに取り組んでいます。県推進協議会では，出品対策の一環として，令和3年11月1日に鹿児島県経済連主催で「繁殖雌牛群・高等登録群」（第4，5区）を対象とした「県集合審査会」を開催しました。審査会には全国和牛登録協会から審査員を招き，鹿児島大会に向けた改善点等の確認を行いました。



【全国和牛登録協会 穴田専務による審査の様子】



【高等登録群区の審査の様子】

「肉牛の部」における出品対策の取組状況

「肉牛の部」については，令和3年6月1日に，候補牛72頭を県内の優秀な肥育農家（18戸）に販売する斡旋会が行われました。現在は，牛肉中のうまみ成分であるオレイン酸などの含有量の向上に向けて「飼料給与マニュアル」や超音波肉質診断技術等を活用した定期的な飼養管理指導を実施しています。



【肥育農家による入札の様子】



【入念な下見を行う肥育農家】

全共対策技術研修会

令和3年12月27日～28日に始良中央家畜市場において、各地区の全共に向けた出品対策のリーダーとなるJA技術員等を対象として、牛の調教に関する技術研修会を行いました。研修会には、岡山県から2人の講師を招き、引き綱による調教技術について実践を交えて研修を行いました。この研修会で学んだ技術を各地区で定着させ、鹿児島大会に向けて、万全の体制で臨めるよう取り組んでいくこととしています。



【講師から調教技術を学ぶJA技術員】



【調教実習の様子】

全共鹿児島大会までのスケジュール

出品区分 出品月齢（生後月齢）	令和2年		令和3年												令和4年													
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
第1区（若雌） 15～23ヵ月未満			11/7																									
第2区（若雌1） 14～17ヵ月未満																												
第3区（若雌2） 17～20ヵ月未満																												
第4区（繁殖雌牛群） 3産以上の産歴																												
第5区（高等登録群） 14ヵ月以上																												
第6区（総合評価群） （種牛群） 17～24ヵ月未満																												
（肉牛群） 24ヵ月未満																												
第7区（脂肪の質評価群） 24ヵ月未満																												
第8区（去勢肥育牛） 24ヵ月未満																												
特別区 （高校及び農業中学校） 14～20ヵ月未満																												

「種牛の部」会場

- 霧島市牧園町
 - ・ 共進会・催事会場
 - ： 霧島高原国民休養地周辺

「肉牛の部」会場

- 南九州市知覧町
 - ・ 審査展示会場：株式会社JA食肉かごしま 南薩工場
 - ・ セリ会場：知覧体育館
 - ・ セリ参観特設会場：知覧文化会館



第12回 全国和牛能力共進会
和牛フェス 在 霧島 2022
 ～和牛の魅力を最大限に引き出す～
 鹿児島大会マスコットキャラクター
 かごしまマ



大会ホームページ <https://zenkyo-kagoshima.com/>

黒毛和種若雌育成牛の飼料給与指針

県畜産試験場では、第12回全国和牛能力共進会の出品に向けて、若雌育成牛(生後9~18ヵ月令)の飼料給与指針を作成しました。

「日本飼養標準」では、若雌育成牛に必要な養分要求量や注意点等が記載されていますが、発育や増体量等の遺伝的特質や、給与する飼料の種類が異なること等から、本県の実情に合わせた内容としました。

今回は、その一部を抜粋して紹介いたします。

試験内容

- 供試牛 黒毛和種若雌育成牛4頭
※「子牛育成飼料給与マニュアル」で飼育
- 試験期間 生後約9~18ヵ月齢
- 給与飼料 濃厚飼料(育成配合、大豆粕)
粗飼料(イタリアンサイレージ等)
- 調査項目 体型測定・体重(4週毎)
飼料摂取量
- その他
 - 人工授精 概ね13ヵ月齢で受胎
 - 繋 牧 週5日、約2時間
 - 引き運動 16ヵ月齢~、週5日、約1時間

試験結果①：体型測定値

(単位：ヵ月齢、cm、kg)

月 齢	開始時		終了時	
	9.6		17.6	
項目	測定値	σ値	測定値	σ値
体 高	117.6	1.70	128.9	1.44
体 長	131.0	1.86	147.3	1.18
胸 囲	160.5	2.08	181.8	1.58
胸 深	56.5	1.41	64.8	1.00
胸 幅	40.4	1.92	47.9	1.84
尻 長	45.9	2.57	51.1	1.52
かん幅	39.9	1.56	44.8	0.90
体 重	333.8		468.0	
栄養度	6.5		6.1	

発育の上
限値

前駆幅
が充実

適正な
栄養度

試験結果②：栄養充足率



飼料給与例(イタリアンサイレージ)

月 齢	体重 (kg)	DG (kg)	高品質なイタリアンサイレージを給与する場合(kg/日)				一般的なイタリアンサイレージを給与する場合(kg/日)			
			めぐみ	大豆粕	イタリアンサイレージ(1番早出穂期)	稲わら	ほほえみ	大豆粕	イタリアンサイレージ(1番早結実期)	稲わら
9	276	1.0	3.0	0.4	6.5	1.0	3.5	0.4	6.0	
10	307	0.9	2.7	0.4	7.0	1.2	3.0	0.4	7.0	
11	334	0.9	2.5	0.4	7.5	1.5	3.0	0.4	8.0	
12	362	0.8	2.2	0.3	7.8	2.0	2.5	0.4	8.5	
13	386	0.7	2.0	0.2	7.8	2.5	2.5	0.3	9.0	
14	407	0.6	1.7	0.1	7.8	3.0	2.0	0.3	9.0	
15	425	0.5	1.5		7.3	3.5	1.5	0.2	9.0	
16	441	0.4	1.2		6.8	4.0	1.5		9.0	
17	453	0.3	1.0		6.3	4.0	1.0		8.5	
18	462	0.2	0.5		5.5	4.5	0.3		8.5	

【ポイント】

- 栄養価の高いイタリアンサイレージを給与する場合、栄養価の低い配合飼料を使用
- 牛の栄養度が高い場合には、稲わらの給与量で栄養価を調整

飼料給与例(オーツヘイ)

月 齢	体重 (kg)	DG (kg)	高品質なオーツヘイを給与する場合(kg/日)				一般的なオーツヘイを給与する場合(kg/日)			
			めぐみ	大豆粕	オーツヘイ(高品質)	稲わら	ほほえみ	大豆粕	オーツヘイ(普通)	稲わら
9	276	1.0	3.0	0.2	5.0		3.5	0.4	4.0	
10	307	0.9	2.5	0.2	4.5	1.5	3.5	0.4	4.0	
11	334	0.9	2.5	0.2	4.5	2.0	3.5	0.4	4.5	
12	362	0.8	2.0	0.2	4.5	2.5	3.0	0.4	5.0	
13	386	0.7	1.8	0.1	4.5	3.0	2.5	0.4	5.5	
14	407	0.6	1.5		4.5	3.5	2.0	0.4	6.0	
15	425	0.5	1.0		4.5	4.0	1.5	0.4	6.0	
16	441	0.4	0.8		4.0	4.5	1.0	0.3	6.5	
17	453	0.3	0.5		3.5	5.0	0.5	0.3	6.5	
18	462	0.2	0.5		3.0	5.0	0.5	0.3	6.0	

【ポイント】

- 栄養価の高いオーツヘイを給与する場合、栄養価の低い配合飼料を使用
- 牛の栄養度が高い場合には、稲わらの給与量で栄養価を調整

飼料給与時の注意点

- 牛の栄養状態を確認し、粗飼料の品質を予測しながら、配合飼料や稲わらの給与量を調整しましょう。
- 「大豆粕」の多給は繁殖障害の一因となりますので、適量(400g/日以下)を給与しましょう。
- サイレージを使用する場合は、水分含量に応じて給与量を調整しましょう。
- 粗飼料(サイレージ、乾草、稲わら)は5cm程度に細断して給与しましょう。
- 「アルギブレンド」を使用する場合は、配合飼料の給与量を同程度減らしましょう。